



—えべつ市民カレッジ(道民カレッジ連携講座)—

2022「ふるさと江別塾」

受講料無料
オンライン配信
11/1~1/31

市と市内四大学の連携協力により、大学が保有する専門的知識と人材を活用して、充実した学習機会場の場として、「ふるさと江別塾」を開講します。例年各大学を会場に対面で開催していましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、昨年同様、動画をYouTubeの限定公開で配信します。えべつ市民カレッジ・道民カレッジは、1講義ごとに1単位認定します。

▼申込みフォーム

<申込み方法>

10月17日(月)までに申込みフォームからお申込みください。18日(火)以降も申込みを受け付けます。オンラインでの視聴が難しい方には講義の動画を収録したDVDを貸し出しますほか、動画を視聴できる会場を用意しますので、お問い合わせください。



<講義内容> ※1 講座 60分程度です。

酪農学園大学

講義
1

国内酪農の持続性と飼料～国際情勢と牛乳の意外な関係～

農食環境学群 循環農学類 准教授 日向 貴久

【講義内容】わが国の生乳生産量は年間750万トンで、そのうち北海道産が約半分を占めています。酪農は元来、人間が消費できない植物を乳牛が飼料として食べることで、「自然の持続」と「社会の持続」に貢献していました。しかし近年の国際情勢はこの持続性に大きな歪みを与えかねないレベルになっており、既に酪農家には「経営の持続」に影響が出ています。本講座では、道民に身近なとうもろこしを出発点に、世界との繋がりや酪農の持続性との関わりについてお話しします。

【プロフィール】札幌市出身。北海道大学農学部農業経済学科卒業後、同大学院を経て、2002年北海道立農業試験場(現、北海道立総合研究機構) 研究員。2018年から現職。専門は農業経済学、農業経営学。主な研究分野は、自然環境を考慮に入れた農業生産と農業経営の在り方で、生産者の意思決定への影響や消費者選好に関する分析、環境評価など。日本農業経営学会理事。



講義
2

我が国の食生活と食肉生産について

農食環境学群 循環農学類 教授 山田 未知

【講義内容】日本においては、戦後、国民所得水準の向上を背景に畜産物の消費量が上昇しました。特に豚肉や鶏肉の消費量は、ほぼ右肩上がり増加しています。これは戦後の日本人の栄養改善のために動物性タンパク質や脂質の摂取が進められたことに加え、豚肉や鶏肉は購入しやすい価格帯であることも要因の一つだと考えます。今回の講座では、我々日本人の食卓に欠かすことができない豚肉や鶏肉・鶏卵を生産してくれるブタとニワトリの凄さについてお話しします。

【プロフィール】福島県出身。1991年に宇都宮大学農学部畜産学科卒業。1993年に宇都宮大学大学院農学研究科修士課程修了。その後、福島県庁に入庁し、畜産行政や試験研究、農業教育等に携わる。2000年に東京農工大学大学院連合農学研究科にて博士(農学)を取得。2012年に酪農学園大学(中小家畜飼養学研究室)に着任。2021年より現職。



北翔大学

講義
1

「家族」と貧困

短期大学部 こども学科 准教授 保田 真希

【講義内容】1度は、「子どもの貧困」、「女性の貧困」、「高齢期の貧困」という言葉をニュースや新聞で見聞きしたことがあると思います。しかし、「貧困」は特定の人に限った話ではありません。実は、「家族」や「働き方」(仕事)が関係しています。では、「貧困」とはどのような状態でしょうか?私たちの生活に必要なものは?本講座では、「家族」や「貧困」について一緒に考えていきたいと思ひます。



講義
2

子育て家族の貧困と孤立—アンケート調査の結果から—

短期大学部 こども学科 准教授 保田 真希

【講義内容】新型コロナウイルス感染症の流行は、多くの人の生活に影響を及ぼしました。在宅勤務の導入や休職・離職、休園や休校などを経験した方もいると思います。江別市内で子育てをしている家族に実施したアンケート調査では、コロナ禍で約3割の家族が誰にも頼れない状態でした。本講座では、コロナ禍で子育て家族は仕事やケア、生活にどのような変化があったのか、どのように生活を営んでいるのかを調査結果から整理し、一緒に孤立を防ぐ支援について考えていきたいと思ひます。

【プロフィール】滝川市出身。北海道大学大学院教育学院博士後期課程修了。博士(教育学)。社会福祉士。専門はこども家庭福祉、ジェンダー。日本社会福祉学会研究支援委員会委員。北海道社会福祉学会役員(研究活動委員会)。北海道教育大学非常勤講師、2018年・2022年教育職員免許法認定講習中学校教諭2種免許状(家庭)「家庭経営学」講師。2018年より現職。

札幌学院大学

講義
1

最近の経済ニュースを読み解く

経済経営学部 准教授 吉川 哲生



【講義内容】2022年に入り、国内的にはコロナ禍や物価高が生じており、庶民の生活は苦しくなっています。そんな中で、海外からの旅行者の受け入れが始まりました。国際的にはロシアのウクライナ侵攻や円安により、私たちの暮らしにさまざまな影響が出ています。このようなニュースではSWIFTや外貨準備など国際金融に関する聞きなれないことばも出てきました。この講座では、現在の日本が置かれている状況を概観してみます。

【プロフィール】愛知県出身。横浜国立大学経済学部、横浜国立大学大学院国際社会科学科博士課程（後期）を経て、2009年より札幌学院大学経営学部会計ファイナンス学科に赴任。現在は経済経営学部経営学科に所属。専門は国際金融。著書（共著）に『現代金融論（新版）』（有斐閣）など。日本金融学会所属。信用理論研究会理事。江別市行政改革推進委員。

講義
2

対雁の樺太アイヌと札幌農学校

人文学部 教授 山田 伸一



【講義内容】1875年に日露間で樺太千島交換条約を結んだ翌年、開拓使は840余名の樺太アイヌを今の江別市対雁の地に強制的に移住させました。そのなかには、開拓使が札幌に開設した皮革加工や馬具製造の工場、官園（官営の試験農場）での労働に携わった人たちがいます。札幌農学校の寄宿舎の一角にあった靴の製造場では、4名の男性が働きました。明治初期の札幌の街でどんな日々を送っていたのでしょうか？史料をもとにお話しします。

【プロフィール】秋田市出身。京都での学生生活を経て、1992年に札幌市へ。北海道大学大学院で北海道の近代史を研究。1996年から北海道開拓記念館（2015年から北海道博物館）、2022年4月からは札幌学院大学人文学部に勤める。1997年から江別市大麻に住んでいる。研究テーマは、北海道と周辺地域の近現代史。なかでも、アイヌ民族の近現代史、野生生物と人間の関係史など。著書『近代北海道とアイヌ民族』（北海道大学出版会、2011年）。

北海道情報大学

講義
1

人工衛星やドローンが活躍するスマート農業の最前線

経営情報学部 システム情報学科 准教授 栗原 純一



【講義内容】スマート農業とは、ロボット技術や情報通信技術を活用して農作業の負担を軽減したり、農作物の品質を向上させたりする、新しい農業のことです。スマート農業では、人工衛星やドローン（無人航空機）で取得したデータを利用した様々なサービスが提供されています。本講義では、それらの仕組みや効果、今後の課題についてわかりやすく解説するとともに、現在注目されている最新技術についても紹介します。

【プロフィール】東京都出身。2004年に東京大学にて博士（理学）取得後、JAXA宇宙科学研究本部、名古屋大学太陽地球環境研究所、北海道大学大学院理学研究院を経て、2022年より現職。専門分野は宇宙惑星科学、航空宇宙工学、農業情報工学等。特に超小型衛星やドローンからのマルチ・ハイパースペクトルリモートセンシングを用いた、持続可能な世界への貢献をテーマとした研究を行っている。

講義
2

銀河のレシピ -隠し味はブラックホール-

経営情報学部 システム情報学科 講師 大井 渚



【講義内容】私たちは約2千億個の星で構成されている直径約10万光年の銀河系（天の川銀河）という銀河に住んでいます。そして銀河系の外には似たような銀河が2兆個程度あると言われています。これほど数多くある銀河ですが、ほぼ全てに共通してその中心部には大質量ブラックホールが存在していることがわかっており、これが銀河成長の鍵を握っていると考えられています。本講義では「銀河形成」にスポットライトを当てつつ、皆さんを壮大な宇宙時空の旅へとお招待したいと思います。

【プロフィール】2007年 東京理科大学理学部物理学科卒、2012年 総合研究大学院大学物理科学研究科天文科学専攻5年一貫制博士課程修了。博士（理学）。宇宙航空研究開発機構（JAXA）宇宙科学研究所研究員、2016年 関西学院大学博士研究員。2017年 東京理科大学理学部第二部教養助教。2022年から現職。専門分野は天文学。

オンラインでの受講が難しい方には、動画を収録したDVDを貸し出すほか、視聴できる会場をご用意しますので、ご相談ください。

◇動画の会場での視聴（要申込）

会場：江別市教育庁舎大会議室

日程：①11月8日（火）⇒酪農学園大学の動画

②11月16日（水）⇒北翔大学の動画

③12月14日（水）⇒札幌学院大学の動画

④12月20日（火）⇒北海道情報大学の動画

時間：いずれも13時30分から2時間程度



えべつ市民カレッジ（道民カレッジ連携講座）

2022「ふるさと江別塾」

<主催>

江別市・江別市教育委員会

お問合せは江別市教育委員会生涯学習課（江別市高砂町24-6）

TEL 381-1062 FAX 382-3434

e-mail: shogaigakushu@city.ebetsu.lg.jp